

帝京大学 大学院



TEIKYO

TEIKYO UNIVERSITY GRADUATE SCHOOLS

2015

医学研究科 ●
Medicine

薬学研究科 ○
Pharma-Science

医療技術学研究科 ●
Medical Care and Technology

公衆衛生学研究科 ○
Public Health

恵まれた学びの環境で 今必要とされるスペシャリストに

最先端の医療設備を備えた帝京大学医学部附属病院に隣接する板橋キャンパスには、医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科、4つの研究科で構成される医療系大学院が集結しています。医療・保健分野がめざましい進歩と変化を遂げ、高度な科学的判断力と実践力、技術を備えた専門家が大いに必要とされる今、この恵まれた環境の中で、そんなスペシャリストとしての第一歩を踏み出してはいかがでしょうか。



C O N T E N T S

概 要

医学研究科	04
薬学研究科	05
医療技術学研究科	06
公衆衛生学研究科	07

カリキュラム & インタビュー

医学研究科	08
・第一基礎医学専攻	09
・第二基礎医学専攻	10
・社会医学専攻	11
・第一臨床医学専攻	12
・第二臨床医学専攻	13
薬学研究科	14
・薬学専攻	15
医療技術学研究科	16
・視能矯正学専攻	17
・看護学専攻	18
・診療放射線学専攻	19
・臨床検査学専攻	20
・柔道整復学専攻	21
公衆衛生学研究科	22
・公衆衛生学専攻	23



Teikyo University





■ Education Purpose — 教育目的

医学研究科は、建学の精神に則り、高い研究能力を持つ医学系研究者の養成、および優れた研究・診療能力を備えた医療系人材の養成を目的とする。

第一基礎医学専攻は、医学研究科の目的に則り、生理学・生化学・解剖学分野における優れた研究者および人材の養成を目的とする。

第二基礎医学専攻は、医学研究科の目的に則り、病理学・薬理学・微生物学分野における優れた研究者および人材の養成を目的とする。

社会医学専攻は、医学研究科の目的に則り、公衆衛生学・法医学分野における優れた研究者および人材の養成を目的とする。

第一臨床医学専攻は、医学研究科の目的に則り、内科学・小児科学・精神医学・皮膚科学・放射線医学・検査医学・リハビリテーション医学分野における優れた研究者および高度専門医の養成を目的とする。

第二臨床医学専攻は、医学研究科の目的に則り、外科学・整形外科学・脳神経外科学・産婦人科学・耳鼻咽喉科学・眼科学・泌尿器科学・麻酔科学・救急医学・形成外科学分野における優れた研究者および高度専門医の養成を目的とする。

■ Diploma Policy — ディプロマポリシー

医学研究科は、優れた診療能力や研究マインドを備えた医療系人材の育成、現場の視点を持った臨床研究または臨床を理解した基礎研究ができる人材の育成、優れた医学研究者の養成を目指している。

以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医学における基礎的および臨床的課題を深く研究し、国際的評価の高い結果を生み出し、医学の発展に貢献する。
2. 臨床経験を積み重ねながら医療・福祉の現場における実際的・実践的課題を見出し、それを深く追求し、科学的判断力、倫理観に基づいて解決する方法を提案あるいは実践できる。その結果について国内外の評価をうける方法を学び、実践できる。
3. 専門的あるいは最先端の知識・技術を深く広く修得し診療に役立て、患者の健康と福祉に貢献することができる。
4. 一定以上の水準の学位論文を作成し、国際的標準の研究結果が発表できる。

医学研究科

Medicine • 博士課程 — 4年

p.09 | 第一基礎医学専攻

Division of First Basic Medicine



p.10 | 第二基礎医学専攻

Division of Second Basic Medicine



p.11 | 社会医学専攻

Division of Social Medicine



p.12 | 第一臨床医学専攻

Division of First Clinical Medicine



p.13 | 第二臨床医学専攻

Division of Clinical Medicine



医学研究科では、帝京大学の教育指針である「実学、国際性、開放性」に則り、優れた診療能力と同時に、高い研究マインドを有する人材の育成を目指しています。

専攻分野は、第一基礎医学（生理学・生化学・解剖学分野）、第二基礎医学（病理学・薬理学・微生物学分野）、社会医学（公衆衛生学、法医学分野）、第一臨床医学（内科系）、第二臨床医学（外科系）の5つに分かれています。本研究科で学ぶことは、技術をより高め、それぞれの専門分野の現場や医学における課題を分析し解決することにつながり、それは即ち患者への尽力となるでしょう。

実学重視の理念を持つ本研究科では、現場の視点を持った臨床研究、臨床を理解した基礎研究ができる人材の育成に特に注力しています。

薬学研究科は、医療の進歩に伴って多様化・高度化する薬剤師への社会的要請に応えるため、2012年に開設されました。問題解決能力や研究マインドの育成に力を入れ、サイエンティストとしての能力を兼ね備えた高度職業人として、指導的立場に立てる薬剤師を育成することを目的としています。

専攻できるコースは、臨床薬学履修コースと薬学履修コースに分かれています。前者では1年間の臨床研修が課され、卒業後に臨床現場でリーダーとなるべき薬剤師の養成を目指しています。後者では、薬剤師資格を持たない人材も受け入れ、薬学関連の大学、研究機関や教育機関において、独創性に富んだ研究を行う研究者や、優れた指導力を発揮する人材の養成に力が入れられます。



p.15 | 薬学専攻

Division of Pharma-Science



薬学研究科

Pharma-Science ● 博士課程 — 4年

■ Education Purpose — 教育目的

薬学研究科は、建学の精神に則り、医療の進歩に伴って多様化・高度化しつつある薬剤師に対する社会的要請に応えるために、問題解決能力や研究マインドの醸成を推進し、サイエンティストとしての能力を兼ね備えた、高度職業人としての薬剤師を育成するとともに、優れた研究能力と指導力を有する教育・研究者を養成することを目的とする。

■ Diploma Policy — ディプロマポリシー

薬学研究科は、医療の進歩に伴って多様化・高度化しつつある薬剤師に対する社会的要請に応えるために、問題解決能力や研究マインドの醸成を推進し、サイエンティストとしての能力を兼ね備えた、高度職業人として指導的立場に立てる薬剤師を育成するとともに、優れた研究能力と指導力を有する教育・研究者を養成することを目的としている。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修め、学位論文審査および最終試験に合格した者に対して学位を授与する。

1. 研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の専門知識と研究能力、およびその基礎となる豊かな学識を持ち、医療科学分野における困難な諸問題に対処できる。
2. 医療人としての倫理観・人間性を持ち、人々の健康と医療に貢献できる。
3. 医療と健康を科学する薬学において、優れた指導力を持つ教育・研究者としての資質を有している。



p.17 | 視能矯正学専攻

Division of Orthoptics

● 博士前期(修士)課程-2年 ● 博士後期(博士)課程-3年



p.18 | 看護学専攻

Division of Nursing

● 博士前期(修士)課程-2年 ● 博士後期(博士)課程-3年



p.19 | 診療放射線学専攻

Division of Clinical Radiology

● 博士前期(修士)課程-2年 ● 博士後期(博士)課程-3年



p.20 | 臨床検査学専攻

Division of Clinical Laboratory Medicine

● 博士前期(修士)課程-2年 ● 博士後期(博士)課程-3年



p.21 | 柔道整復学専攻

Division of Judo Therapy

● 修士課程-2年



医療技術・医療機器が著しく進化し、分野ごとの専門性が求められる近年、コ・メディカル分野がより重視されています。そんな中、医療技術学研究科では、2005年に視能矯正学、2009年に看護学、診療放射線学、臨床検査学の大学院を開設。2012年には柔道整復学を宇都宮キャンパスに開設しました。

実学を重んじる伝統を持つ帝京大学院として、本研究科では「高度な専門職医療人」の養成を目指し、自分で考え、解決し、新しい道を切り開いていける人材の育成に力を注いでいます。病院が隣接し、研究と臨床がひとつの場所にある状況は、専門職医療人を育てるのに絶好の環境。この環境を生かし、臨床現場との協働研究を充実させ、より高度な医療人を育成していきます。

医療技術学研究科

Medical Care and Technology

■ Education Purpose — 教育目的

医療技術学研究科は、建学の精神に則り、社会の要望にこたえるため、高度先進医療に対応した専門医療職を目指すとともに、教育・研究面で指導的立場で活躍できる人間性豊かな人材の育成を目的とする。

■ Diploma Policy — ディプロマポリシー

医療技術学研究科は、高い人間性と高度先進医療を担える専門的学識・技能を有し、また教育研究の指導ができる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 各専攻が掲げる高度な専門的知識を有し、その技術を実践することができる。
2. 自ら問題を的確にとらえて解決し、発表することができる。
3. 医療技術の進歩や社会情勢の変化に適応する生涯学習態度および教育指導態度を有する。



■ Education Purpose — 教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人と、その活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする。

〔専門職学位課程〕

■ Education Purpose — 教育目的

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）は、公衆衛生学研究科の目的に則り、公衆衛生の専門知識・スキルと公衆衛生マインドを身につけ、公衆衛生の現場で発生する諸課題に対して問題解決を実践する高度専門職業人の養成を目的とする。

■ Diploma Policy — ディプロマポリシー

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決型の対処ができる高度専門職業人の養成を目指している。従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 環境・社会との関わりから健康事象を理解し、対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。
2. 集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療（EBM：Evidence Based Medicine）に必須である疫学を修得することにより、科学的医療を実践できる専門的な技術と指導力を有している。
3. 予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを包括的に理解し、それを医学・医療の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。
4. 公衆衛生学の見地に立って、身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を理解した総合的医学や全人的医療・地域医療が実践できる専門的な技術と指導力を有している。

〔博士後期課程〕

■ Education Purpose — 教育目的

公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力に加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目的とする。

■ Diploma Policy — ディプロマポリシー

公衆衛生学専攻（博士後期課程）では、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力に加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、3年以上在学し、学位論文の審査に合格し所定の単位を修めた者に対して博士（公衆衛生学）の学位を授与する。

なお、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。ただしその場合、修士課程、博士前期課程、または専門職学位課程の在学期間とあわせ、3年以上在学していなければならない。

1. 公衆衛生の実際の場における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域（疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、産業保健・環境保健学、行動社会疫学）を統合する役割を果たすことができる能力を有している。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力を有している。
3. 公衆衛生の実践において求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を有している。
4. 患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができるとともに、その活動を統括指導できる能力を有している。
5. グローバルな視点から身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた個人及び社会の立場を理解し全人的医療及び地域医療を含めた公衆衛生活動を指導的立場から実践する能力を有している。

公衆衛生学研究科

Public Health ● 専門職学位課程 — 1年コース、2年コース ● 博士後期課程 — 3年

公衆衛生の専門職大学院として、国内で4番目、私学では初めて2011年に開講されました。本研究科では、公衆衛生の専門知識・技能と公衆衛生マインドを身につけた人材、公衆衛生の現場で発生する諸課題に対し、科学的判断に基づく問題解決を実践できる指導的立場にある専門職人材（Professional）を養成しています。

2014年には博士後期課程を開設。専門職人材の活動を統括指導する上級管理者・上級指導者、さらには、急速に変動発展する国際社会と科学技術

に対応する保健医療システムの変革を、先導し管理する能力を備えた人材（Change Agent）の養成を目指しています。

学生と教員が一体となり、人々の生命と健康を守るための総合的な問題解決に取り組める研究科です。

p.23 | 公衆衛生学専攻

Division of Public Health



医学研究科

臨床と基礎とが乖離せずに 結びつく教育環境 他学科・他大学との連携も盛ん

近年、生命科学と医療技術は、めざましい進歩を遂げています。社会全体の高齢化や国際化の影響もあり、医療環境は大きく変化をしています。このような状況を正しく認識し、最新・最善の医療を現場に導入すること、そして、医師自らが研究を通し医学の発展に寄与することは非常に重要であり、そのために大学院教育は欠かせません。

実学を重んじる伝統を持つ本学医学研究科の特徴は、臨床と基礎の垣根が低く、臨床を学びながら、研究に入っていける点にあります。臨床医学分野では、臨床現場で実際の・実践的課題を見出し、それを深く追求するという形で研究を始めることが可能です。基礎医学分野においても、教員たちはその分野の第一線の研究者でありながら臨床にも携わっており、実際の医療と乖離することのない研究指導を受けることができます。このような教育環境は、基本的な知識・技術を礎に、現場の実務経験を踏まえて医療の問題点を発見、それを分析し解決するような高度の専門職職業人の育成を可能にしています。

帝京大学大学院は、医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科が同じキャンパス内にあり、他科との共同研究が盛んに行われています。また、教員の幅広い人脈を生かした他大学・他施設との連携も強化されています。医師は一生を通じて学ぶことを求められる職業です。医師としての能力をさらに充実させたいと考える、意欲ある医師の入学を歓迎します。

■ Curriculum Policy — カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得するために、医学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 各主科目領域で、高度なかつ徹底した専門的教育・研究を行ない、指導教員のもとで研究・論文作成・学位取得とともに専門医取得を目指すプログラムを組む。
2. 自立して問題解決や論文作成に必要な計画性および論理的思考を身につけ、医療倫理や科学的知識・統計的手法などの幅広い分野で基礎的能力を育てるために必修科目を編成する。
3. すべての大学院生に開かれ、自分の専攻に関わらず様々な分野に視野を広げることを可能にするために、幅広い分野にわたる多数の共通科目を編成する。
4. 副科目として一定期間に別領域を学べるプログラムを導入し、他の領域での経験によって自分の主領域における研究や実践をより深く掘り下げる。
5. 各専攻分野において、医学の進歩や社会の変化に対応した科目を編成する。



主な研究分野

細胞組織学
脳神経科学
生化学（臨床医科学）
分子生体機能学
生命物質化学

第一基礎医学専攻

Division of First Basic Medicine

大隈 義道さん 博士課程 修了

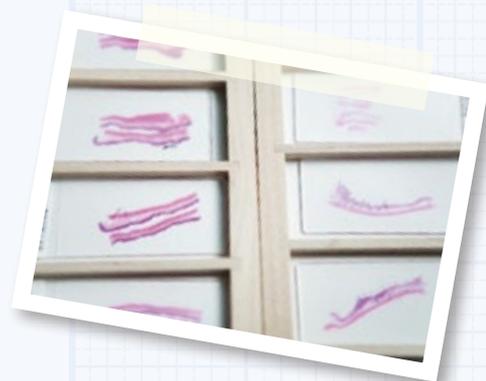
大隈義道さんは帝京大学医学部卒業後、兵庫医科大学の消化器内科に勤務した後に、大学院に入学しました。消化管の免疫組織化学、ヘルペスウイルスの感染実験、主に2つのテーマで研究を進め2005年に学位を取得。現在は兵庫県で内科医院を開業しています。

院生だった当時を振り返り「臨床医として訓練を受けていても、実験のテクニック等には明るくなく、畑違いと言ってもよい基礎の分野にやってきましたが、担当教授には本当に手取り足取り一から教えていただきました」と大隈さん。学生の人数も適度で、密に指導を受けられるのがいいところだと言います。

開業医として活躍する大隈さんです

が、基礎を経験することは、物の見方・考え方に幅が生まれ、臨床に戻った時にもプラスに作用することの方が多いと考えています。「基礎に行ったら、臨床に遅れるのではないかと危機感を持つ医師もいますが、臨床を離れて基礎を学ぶ間は、自分で思考し解決していくトレーニングにもなり、時間的な余裕から興味のある論文を数多く読み込むこともできます」と話し、ご自身は開業後も学会発表など研究活動を続けています。

「私の時と違って、今は校舎もきれいで新しく、設備も最新の物が入っています。うらやましいですよ」。板橋キャンパスの充実ぶりも大隈さんから太鼓判が押されました。



主な研究分野

人体病理学・病理診断学
神経薬理学
感染免疫病態制御学
医真菌学
宇宙環境医学
移植免疫学
国際感染症・危機管理学

那須野 玲奈さん 博士課程 3年生

泌尿器科と透析の専門医で、現在も首都圏の病院で勤務する那須野玲奈さん。主に透析のための血管手術を行っています。手術で行った処置が長持ちしない患者さんが多いことから、これを根本的に解決する方法はないかと、大学院に入って研究を始めました。

国立の医学部出身の那須野さんは「専門や年齢など様々な大学院生が所属している」ことに少し驚いたようです。現在は、週に2日半ずつを研究と仕事に使うスケジュール。研究一本に絞らず、臨床と研究の両方を平行して行える柔軟さが魅力の一つだと、那須野さんは言います。

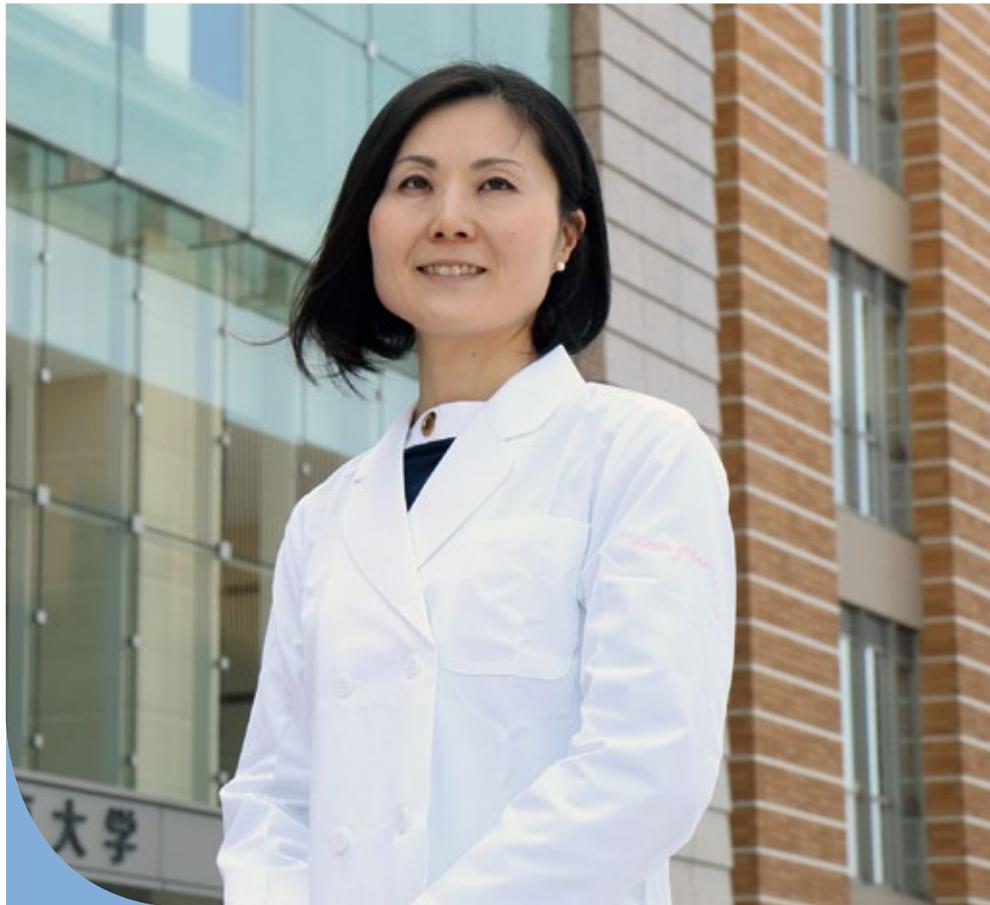
また、那須野さんは二人の娘さんを

持つ母でもあります。「子供をどうしても預けられなくて講義に出席できないときにも、レポートを提出することで代替できるよう動いてくれたりと、個人の事情に柔軟に対応していただけます」と、学びたい意欲のある人を柔軟に受け入れる魅力は、こんなところにも表れています。

研究・仕事・子育てと、忙しい毎日を送る那須野さんですが、大学院在学中に透析の専門医の資格を取るなど、平行して研究を行うことが臨床のステップアップにもつながっているそうです。今後、実験技術を高めて自力で研究のできるスキルを身につけ「卒業後も研究はやめないで続けていきたいですね」と、希望を語ってくれました。

Division of Second Basic Medicine

第二基礎医学専攻





主な研究分野

公衆衛生医学

法医学

がん医療経済学

地域医療学

社会医学専攻

Division of Orthoptics

石黒 彩さん 博士課程 3年生

石黒彩さんは、帝京大学医学部卒業後、市中病院で初期研修を行い、大学院博士課程に進みました。現在は、帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座で助手として教員の仕事をしながら研究を進めています。

「初期研修を通して、一人ひとりの患者さんに対する医療の重要性を強く実感するとともに、患者さんが暮らす環境や社会的なバックグラウンドを含め、集団の健康をどう守るのかを考えることも必要だと感じました」と、進学を話す石黒さん。医学部に進んだのも、医療に恵まれない環境の人たちの健康を守る国際協力に興味を持ったからだそうです。

「帝京の先生方の研究は幅広く、個々

の学生の興味に合ったたくさんの機会と、惜しみないバックアップをいただいています」と学びの環境は充実している様子。

現在は、石巻でフィールドワークを重ねながら「震災で変化してしまったコミュニティでどのように健康な地域作りをしていくのか」を研究の中心テーマに据えると同時に、生活習慣病対策や医師の就労環境に関する研究にも携わっています。「集団の健康を考える視点は、臨床医としても大切だと思います。帝京で医師に育てていただいた恩を、研究や臨床活動を通じて社会に返していきたい」とあくまで謙虚に抱負を語る石黒さん。今後も、健康なコミュニティ作りを追及し続け、社会に役立てていくでしょう。

主な研究分野

内分泌・代謝学
免疫・代謝学
代謝・糖尿病学
腎臓病学
血液内科学
血液腫瘍学
消化管内科学
消化器肝臓内科学
消化器内視鏡学
肝臓免疫代謝学
呼吸器・アレルギー学
呼吸器病態生理学
呼吸器内科学
生体防御感染症学
循環器内科学
循環器病学
神経学・脳神経内科学
神経学・神経内科学
小児科学
皮膚科学
放射線診断学・放射線腫瘍学
臨床腫瘍学
総合診療腫瘍学
臨床開発腫瘍学
緩和医療学
心身医学
精神神経科学
リハビリテーション医学
臨床検査医学

佐藤 恭弘さん 博士課程 3年生

現在、帝京大学医学部附属病院の小児科に勤務する佐藤恭弘さんは、後期研修の2年目から、大学院に入学して学んでいます。研究分野は内分泌・代謝。学部時代からあまり得意ではなかった分野をあえて選択しました。「小児科は全ての科をまとめて小児科。苦手な分野があるとよい診療ができません。深く勉強することによって、苦手分野をなくしたいと考えました」と佐藤さん。大学院3年目に入り、臨床の現場でも、内分泌・代謝の患者さんもしっかり任せてもらえるようになってきたと言います。

専攻によって異なりますが、佐藤さんは、4年間研究のみをするのではなく、3年間は臨床と研究を平行して行い、1

年間は研究に専念する形で博士課程に所属していて、この臨床と研究の両立ができる体制を魅力の一つとして挙げます。「臨床はとても楽しいのですが、研究は大学に残っている間しかできない可能性が高く、大学にいるうちに研究もやっておくことは大事だと思います」と話し、今後の研究で「患者さんの治療に直結する結果が出れば」と意欲的。研究も臨床同様に楽しんで行っている毎日です。

「子供が治ったときの笑顔が嬉しい」と、小児科医としてのやりがいを語る佐藤さん。学位をとるとともに、小児科、内分泌・代謝双方の専門医となるべく、邁進中です。

Division of First Clinical Medicine

第一臨床医学専攻





主な研究分野

外科学(総合)
乳腺腫瘍学
肝胆膵・移植外科学
小児外科学
上部消化管外科学
下部消化管外科学
内視鏡外科学
血管外科学
呼吸器外科学
心臓血管外科学
運動器再建・再生学
産婦人科学
脳神経外科学
耳鼻咽喉科学
鼻科学・睡眠学
視覚病態学
泌尿器外科学
形成・口腔顎顔面外科学
東洋医学
麻酔科学
麻酔・周術期医学
麻酔・疼痛科学
救急災害医学
集中治療医学

第二臨床医学専攻

Division of Second Clinical Medicine

池田 豊さん 博士課程 2年生

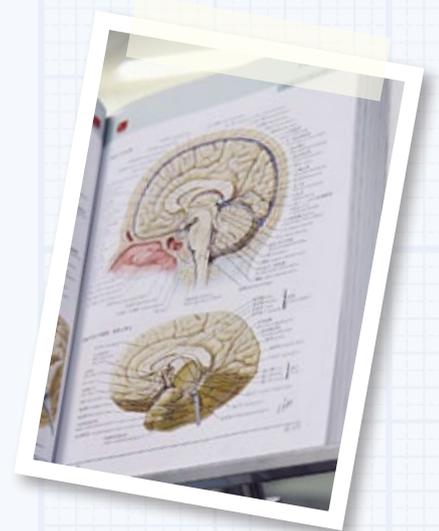
帝京大学附属病院救急科で後期研修中の池田豊さん。現在、博士課程で肝胆膵外科を専攻しています。大学院に進学したのは、働きながら学べる環境が整っていたこと、臨床にフィードバックできるような研究ができることなどからでした。また、今いる環境に安住せず、外の世界を体験したい気持ちの強い池田さんにとっては、国内であれ海外であれ、この先、新しい世界へ赴くのに「博士号」という学位が必要だとの考えもあるようです。

大学院では、面倒見のよい教授陣や先輩達からの協力・サポート体制がしっかりしており、職場である附属病院では、大学院での授業を優先させてくれたりと、「臨床を続けながら学ぶ環境は最

適です」。

池田さんは、不登校や中学卒業後プロゴルファーを目指しての渡米など、異色の経験の持ち主です。「様々な経験を積んで、大変な環境は自分を成長させてくれることを知りました。肝胆膵外科は難しい分野ですが、その分学べることも多い分野です。応用の幅が広く、肝胆膵外科を深く学ぶことで、胃や大腸など消化器全般を診られるような医者になれるのではないかと考えています」と自らのチャレンジを語ってくれました。

研究テーマは細胆管細胞癌の発生母地に関する病理組織学的研究。できれば3年生までには質の高い論文をまとめたいと、研究計画でもあえて高いハードルを課す池田さんです。



薬学 研究科

高度な研究マインドを持った 薬剤師・指導者を育てる 病院や他学部との密接な連携

薬学研究科には、臨床薬学履修コースと薬学履修コースが設置されており、高度な研究マインドを持った薬剤師・指導者を育てることを目的としています。したがって、臨床薬学履修コースでは、病院において1年間の実務実習が義務づけられており、薬学履修コースでは薬剤師の経験に応じて3ヶ月までの実務実習を受けることができます。また、薬学履修コースでは薬剤師資格がない人も受け入れており、薬学部出身者以外の入学者にも薬学関連の知識が得られるような講義も行っています。臨床薬学履修コースでは、病院において1年間の実務研修を受けることができます。

本研究科の特徴の一つは、病院が隣接する環境にあって、臨床現場との連携をとって実践的な研究ができるということです。附属病院の薬剤部との連携が強く、教授陣には臨床現場の第一線で働く薬剤師も在籍し、薬剤部長・副部長といった要職を兼務している人材もいます。薬剤部だけでなく、現場の医師の協力も手厚く、実務研修、博士論文作成のための臨床研究を実施するにあたって、円滑に連携体制がとれる環境です。

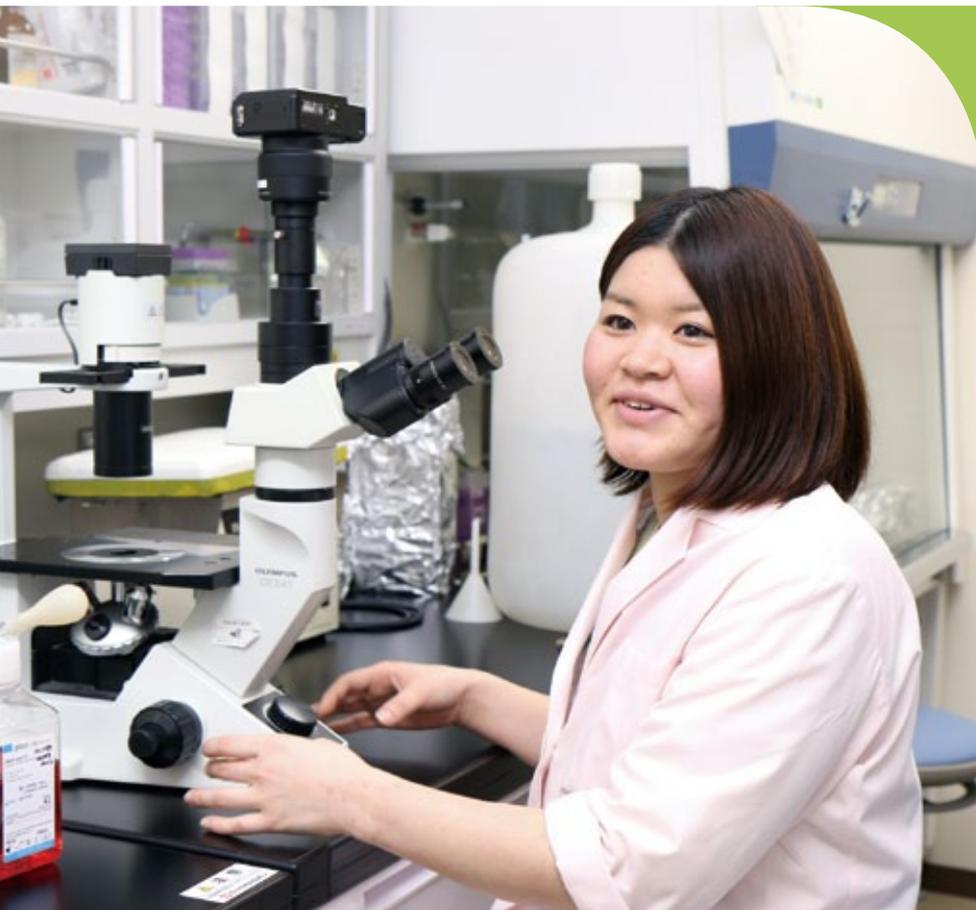
また、医学部と工学部の協働や産学連携により、医療・環境・エネルギー分野での製品開発、技術開発、研究等を進めている「帝京大学ジョイントプログラムセンター」の活動に薬学も参加。医療分野においては、薬学ならではの研究による社会貢献に期待が大きく、学内での連携は今後ますます強化される予定です。

社会から薬剤師に対する期待が高度になる中、臨床現場で薬物治療のリーダーとなり、薬剤部長等の指導的役割を担う人材、薬学的視点を持って、教育現場や行政で、高い能力を発揮できる人材を育成を目指しています。

■ Curriculum Policy — カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得し、医療現場において指導的立場に立てる高度職業人（薬剤師）および薬学教育現場における優れた教育・研究者など、社会の要請に合った人材を養成するために、薬学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 幅広い科学領域の特論講義・特別講義により、科学的な観点から医療を捉える能力を育成することを目指す。
2. 所属研究室において教員指導のもとで薬学課題特別研究を行い、学位論文を作成することにより、問題解決能力や研究マインドを高め、自立した研究者としての研究能力と専門知識・技能を身につける。
3. 所属研究室における各種演習を通して、専門知識の幅を広めるとともに論理的な思考力を身につける。
4. 病院実務研修を通して、薬剤師としての高度な臨床実践能力を有し、一方で科学者の観点から薬物治療における諸問題を解決し、より高度な医療の実現に貢献できる人材を育成する。



薬学専攻

Division of Orthoptics

高田 裕子さん 博士課程 3年生

帝京大学薬学部を卒業した高田裕子さんは、5年生の実務実習で患者さんと接して、物事をわかりやすく伝えるのは難しいと感じ、ものの考え方や考える力を身につけたいと大学院進学の道を選びました。

高田さんの研究テーマは「妊婦の健康状態と生活習慣に薬剤師がどのように関われるのか」。臍帯の細胞解析と、臨床現場でのアンケート調査の二本立てで行っており、病院のすぐそばで研究できることはかなりのメリットです。地理的な近さだけでなく「産婦人科の先生と共同で研究をしています、とても協力的で、また研究室の教授も臨床現場と積極的に連携をとってくださいます」と、教授陣のバックアップが素晴らしいとのこと。

さらに、薬学の教授陣は「担当教授以外も研究の進み具合を気にしてくださったり、場合によっては直接指導してくださったり」と、研究室の垣根を越えてとても協力的。意義をきちんと説明すれば、学生がやりたいと思う研究に挑戦させてもらえる自由度の高い文化もあるそうです。

卒業後は、病院の薬剤師として妊婦の健康に関わりたいと考えている高田さん。「学部卒業後の4年間を大学院で学ぶことで、卒業後すぐ薬剤師として働く場合とは異なった視点で物事を捉える力が身に付き、問題解決ができる薬剤師になるために役立つと考えています」。研究の経験を臨床の現場で役立てる希望を語ってくれました。

主な研究分野

病院・地域医療研究部門

臨床薬剤学
実務薬学
実務実習研究センター
薬物動態学
薬学教育研究センター

薬物治療研究部門

医薬品作用学
薬効解析学
薬物治療学
病態生理学
人体機能形態学
細胞生物学
病態分子生物学
生物化学
薬物送達学
製剤学
分子薬剤学

医薬品研究部門

創薬化学
薬化学
有機化学
医薬品分析学
臨床分析学
創薬資源学
物理化学
物理薬剤学
基礎化学
基礎生物学

安全性・毒性研究部門

衛生化学
毒性学
環境衛生学
生体防御学
実習・演習教育センター
薬剤疫学

医療技術学研究科

実学を重んじる伝統と 個人に合わせた指導で 高度な専門職医療人を育成

高度な専門職医療人の養成を目指す医療技術学研究科での学びは、まずは積極的に現場に出て、各々の技術の習得に努めるところから始まります。医療技術学は技術職として技術・技能を高めるという側面が強いからです。現場での学びを継続しながら、またはその後、研究課題に取り組むこととなります。そして、認定・専門看護師、医学物理士、一級臨床検査士などの資格取得等、各自の希望と目標に合わせて、より高度な成長をしていきます。

医師不足がメディアで盛んに話題にされる昨今ですが、実は、コ・メディカルは医師以上に不足しています。したがって修了生の社会からのニーズは大きく、多様な進路が確保されています。病院だけでなく、臨床検査技師ならば臨床検査受託企業、試薬開発企業など、視能訓練士なら製薬会社の研究施設等への就職実績もあり、幅広い世界でOB・OGの活躍が光っています。実学を重んじる帝京の学生には特に、即戦力として大きな期待がかかっていると言えるでしょう。

学生につく指導教授は、研究についてはもちろん、学生生活についても困ったことがあれば何でも相談できる存在ですから、頼りにしてください。また、大学院在学中は、机の上の勉強だけでなく、先輩や患者の話を聞いたり他の専攻とも交流したりするなど、多くの見聞を心がけてほしいものです。そして、自分の夢をしっかりと持つこと。夢を叶えるための、環境、教授陣、スタッフが、医療技術学研究科には揃っています。

■ Curriculum Policy — カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得するために、医療技術学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 各専攻が掲げる高度な専門的知識を獲得し、その技術を実践できるようにするための科目を編成する。
2. 課題への探求心と解決能力および発表能力を修得するために、指導教員のもとに主体的に研究を遂行し、学位論文を作成・発表する科目を編成する。
3. 医療技術の進歩や社会情勢の変化に適応できる能力および教育指導力を高めるための科目を編成する。



主な研究分野

両眼視機能診断学
両眼視機能治療学
眼筋機能病理学
眼筋機能回復学
視覚機能検査学
視覚機能訓練学
視覚機能病態学

視能矯正学専攻

Division of Orthoptics

八木 敏次さん 修士課程 2年生

八木敏次さんは、医療技術学部視能矯正学科で助手を務めながら、大学院で学んでいます。視能訓練士として臨床現場でも仕事をしています。とても忙しい毎日ですが、八木さんは「実際に臨床に立たないとわからないことはたくさんあります。研究活動では、臨床だけではわからないことを身につけられますが、座学で得た知識が臨床で生きたり、臨床での経験が座学での勉強に効果をもたらしたりなど、座学と臨床で何かしらのリンクがあるもの。臨床と研究を両立させることは、両方にとって価値があると思います」と話します。

大学院では、自分の研究を進めると同時に、学生時代の基礎の確認から、4年間で学ぶことができなかつたより細

かいところまで学べるカリキュラムが用意され、とても勉強しやすいと八木さん。研究テーマは「眼振」。学生時代に興味を持ったものの、疾患自体が多くはなく、深く勉強しようと資料を探してもあまり詳しく書かれている本がないため、そのまま自分の研究テーマになったのだとか。大学院では眼振のスペシャリストの教授から直々の指導を受けることができ、研究が進んでいます。

今後の目標は？と尋ねると「今は最終的な研究発表に向けて少しずつ前進しています。その後のことは、終わってからゆっくり考えます」と笑顔で答えてくれました。

目的

視能矯正学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、科学的な思考法、観察力、判断力、専門性を備えた眼科検査・視能訓練実践者、研究者、教育者の育成を目的とする。

ディプロマポリシー

視能矯正学専攻は、優れた実践者・研究者・教育者として、高度な眼科検査技術をそなえた視能訓練士の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 視能矯正学に習熟し実践することができる。
2. 視能矯正・視能訓練において専門的な検査・診断の評価をふまえ、斜視手術法に参画できる。
3. 視覚の病態を理解し、次世代教育に従事できる。

カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得するために、視能矯正学専攻は以下の方針でカリキュラムを編成する。

【博士前期課程（修士課程）】

1. 両眼視機能全般について高度な専門知識・技術を修得するため、「両眼視機能診断学」「両眼視機能治療学」を必修科目として配置する。
2. 個々の研究テーマに関連した高度な専門知識・技術を修得するため、「眼筋機能病理学」「眼筋機能回復学」「視覚機能検査学」「視覚機能訓練学」「視覚機能病態学I・II」を選択科目として配置する。
3. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力を養成するための研究プログラムを行うため、「視能矯正学特別研究」を必修科目として配置する。

【博士後期課程（博士課程）】

1. 視能矯正学に関する様々な研究テーマに対応するため、「両眼視機能学」「眼筋機能学」「視覚機能学」「視覚機能病態学」に関する科目を選択科目として配置する。
2. 個々の研究テーマについて深く考察し、学位論文の作成に不可欠な教育・研究マインドと発表能力の開発のため「視能矯正学特殊研究」を必修科目として配置する。

主な研究分野

基礎看護学

成人看護学

リプロダクティブヘルス・ライツ看護学

小児看護学

精神看護学

地域・公衆衛生看護学

高齢者看護学

がん看護学

小宮山 恵美さん 修士課程 1年生

保健師の小宮山恵美さんは、東京都北区の職員として、公害保健、結核感染症の患者ケアと予防、高齢者福祉、DVや子供の虐待問題など、数々の分野で活躍してきました。経験してきた様々な活動を普遍化していく作業が必要だと感じてきましたが、日頃の業務の中では時間もとれず、そのための情報を集めることも難しいものでした。そこで、大学院で学びながら、自分の経験をまとめあげようと進学の道を選びました。

自らの経験を普遍化することは、後進の育成につながることです。「管理職として、自分のキャリアアップだけでなく人材育成も大きなテーマです。若い保健師をどのように教え、どのように支援して育成す

るべきなのか、糸口を探したいと思い、研究テーマには『保健師の卒後教育』を考えています」と今後の研究への希望を語る小宮山さん。

帝京の大学院を選んだのは、地理的に近いことに加えて、ただでさえ多忙な区の仕事を通常通り遂行しながら、勉強するという立場を理解してくれることだそうです。「カリキュラムも相談しながら作っていきますし、仕事との両立が可能だと考え選ばせていただきました」。仕事も家庭もバランスをとって自分のペースで学べることを大切に、3年間かけて修士課程を修了し、あるべき「保健師の卒後教育」を形化する予定です。

Division of Nursing

看護学専攻

目的

看護学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、人間の尊厳を基盤として、看護学を創造的・実践的に発展させ、複雑化・高度化する社会環境の中で多様化しているニーズに対応できる、看護分野の高度な専門性を備えた実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

ディプロマポリシー

看護学専攻は、人間の尊厳を基盤として、看護学を創造的・実践的に発展させ、看護分野の高度な専門性を備えた実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めたものに対して学位を授与する。

1. 実践者、管理者、研究者、教育者として必要な人間の尊厳について説明でき、それに基づいた行動ができる。
2. 複雑化・高度化する社会環境・医療の中で、多様化するニーズを把握し、看護上の問題を述べることができる。
3. 学部で学んだ基礎的な看護学の知識・技術をもとに、実践者、管理者、研究者、教育者として必要なより専門的な知識・技術へと発展できる。

カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得するために、看護学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

【博士前期課程（修士課程）】

1. 複雑な健康問題を有する対象のフィジカルアセスメントの能力、高度な倫理的判断・調整能力、看護実践・教育を行う上で必要な教育的・管理能力を育成するため、共通科目群を配置する。
2. 個々の研究テーマに関連した高度な専門的知識・技術を修得するため、各看護学領域の専門科目群を配置する。
3. 看護学の理論や研究方法を専門的に学び、個々の研究テーマに従い、一連の研究プロセスを体験し、教育・研究・理論開発するための初歩の能力を育成するため、各看護学領域の特別研究を配置する。

【博士後期課程（博士課程）】

1. 看護学の理論や研究方法をより専門的に学び、自立して教育・研究・理論開発するための能力を育成するため、共通科目群を配置する。
2. 個々の研究テーマに従い、自立して研究・理論開発するための能力を育成するため、各看護学領域の特別研究を必修とした専門科目群を配置する。





主な研究分野

医療画像情報学
 医療画像情報工学
 医療画像処理学
 医用機器品質管理学
 医療画像読影学
 診療画像技術学
 核医学検査技術学
 放射線治療技術学
 最先端医療機器学

目的

診療放射線学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、診療放射線学の高度な知識、先進医療技術を有し、病態の診断、治療に携わることができる実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

ディプロマポリシー

診療放射線学専攻は、豊かな学識を基盤に、より高度な医療技術を修得し、診療放射線学領域における独創的な学術研究を行える優れた研究者・教育者としての人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

【博士前期（修士）】

1. 豊かな人間性を備え、診療放射線学分野での専門的医療・研究・教育に対して、責任をもって実践できる。
2. 診療放射線学のみならず、広く学際領域の学術研究成果を理解、統合することにより、先進的な医療技術の研究開発ができる。

【博士後期（博士）】

1. 診療放射線学分野における理論と実践的知見を高め、より高度な医療、及び先進的な研究を推進できる。
2. 理論の妥当性の科学的検証、診療放射線学に要求される根拠に基づいた医療技術の実践、教育研究活動を行うことにより新たな医療技術の発展に参画できる。
3. 医療、研究、教育、行政などの関連機関において、社会の変革に対応できる高度専門医療技術職としてのリーダーシップを有する。

カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力を修得するために、診療放射線学専攻は以下の方針でカリキュラムを編成する。

【博士前期課程（修士課程）】

1. 専門科目では、根拠に基づいた医療技術の実践を通して、原著論文を読解し、情報を的確に分析する能力を養うため、「放射線科学特論」、「医療画像基礎読影学」、「医用機器品質管理学」、「科学研究・論文技法学」のほか、医療画像情報学系科目を必修科目として配置する。
2. 専門実習科目では、医師のもとで読影の基礎を習得し、また高度専門医療施設等の臨床実習を通して先進医療技術を修得し、診療放射線学の医学応用について柔軟な適応能力と実践能力を養うため、「診療画像技術学臨床実習」、「核医学検査技術学臨床実習」、「放射線治療技術学臨床実習」を選択必修科目として、「先端医療施設臨床実習」を自由科目として配置する。
3. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「診療放射線学特別研究」を配置する。

【博士後期課程（博士課程）】

1. 数多くの臨床画像に触れることにより、更に高度な読影能力を養うため、「医療画像読影学」を必修科目として配置する。
2. 専門職（医学物理士など）として臨床に即応できるため、「診療画像技術学臨床実習」および「先端医療施設臨床実習」を配置する。
3. 研究論文の作成を通して、学術交流、教育・研究活動に貢献できる能力や先進的な医療技術を開発できる能力を養うため、「診療放射線学特別研究」を必修科目として配置する。

診療放射線学専攻

Division of Orthoptics

熊谷 仁^{さん} 博士課程 2年生

診療放射線技師である熊谷仁さんは、放射線治療を専門に研究中。「放射線治療は日々高度になり、一步間違えれば患者さんの命にも関わる難しい分野です。学部勉強だけでは、高度な知識・技術を身につけるのに充分ではないと考えました」と進学理由を話します。

現在は、平日は毎日、病院で業務の手伝いをしながら、夜や休日を使って研究を進めています。週一度の担当教授とのミーティングでは、厳しく的確な指導を受けられ、職場でのOJTとともに、自分が大きく成長できる環境にいると言えます。「決まりきったことを行う学部の勉強とは異なり、自分の責任で、やりたいと思った研究を自由にできます」

と、大きなやりがいと手応えを感じている様子です。

診療放射線学専攻のただ一人の一期生だった熊谷さんですが、少しずつ後輩が増えて「自分は意識しなくても、後輩にとっては私が基準となります」と、大学院全体のレベルアップに責任を自覚し始めました。まずは、「医学物理士」の認定を受けることが目標です。医学物理士は、医師、看護師、診療放射線技師等がチームを組む放射線治療において、機械の精度やチームメンバーのマネジメントに責任を持つ、安全で高度な放射線治療を行うのに今後欠かせなくなる職種です。自身が認定を受けることで見本を示し、後輩も続くことを熊谷さんは願っています。

主な研究分野

生理機能検査学
人体システム生理学
画像生理情報解析学
病態情報解析学
先端血液解析学
病理検査学
臨床病態生理学
細胞病理検査学
感染生体防御機能解析学
感染制御学
病原体検査学
生体防御機能解析学
臨床化学検査学
分子代謝生化学
分子生物学

野木 岐実子^{さん} 博士課程 1年生

帝京大学附属病院の中央検査部に所属する野木岐実子さんは、2012年に修士課程に進学、現在は博士課程で学んでいます。臨床検査技師の認定資格を取得するなど、スキルアップは積極的に行ってきましたが、技術面だけでなく「勉強」をしたいと思ったことがきっかけでした。

「仕事をする上で、ずっと勉強は続けていかななくてはなりません、自主的に勉強をすることは簡単ではありません。大学院という環境に身を置くと勉強はしやすくなりますし、優秀な先生や先輩に接することは刺激になります。自主的な学会発表では、忙しさから論文の形にまではできないこともこれまでは多かったのですが、『必ず論文にする』と

いう状況も大学院進学のよい点です」と、野木さんは説明します。職場での後輩指導においても、授業で聞いた最前線の情報を入れ込みながら教えることができて役立っています。

通常の仕事を続けながらの学生生活ですが、大きな困難はなく続けてこれたという野木さん。仕事が終わった後に授業を組むなど、学びやすい環境を作ってもらえたことが大きいそうです。先生方とメールで直接やりとりして授業日程の調整をしてもらえることもあるとのこと。今後の目標は「勉強をする人が次に続くこと」。自分だけでなく、臨床検査技師全体のレベル向上を願う責任感の強い野木さんです。

Division of Clinical Laboratory Medicine

臨床検査学専攻

目的

臨床検査学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、臨床検査をはじめ衛生、食品業務に関わる検査医学の知識、技術、研究、教育に関して高度な専門性を備え、社会で指導的役割を果たせる実践者、管理者、研究者、教育者の育成を目的とする。

ディプロマポリシー

臨床検査学専攻は臨床検査をはじめ衛生、食品業務に関わる検査医学の技術、知識、教育に関して高度な専門性を備え、社会で指導的役割を果たせる実践者、管理者、教育研究者の育成を目指している。以下のような能力を身に付け、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 臨床検査に必要な生化学、血液学、免疫学、微生物学、生理学、病理学に関する専門的知識を有し、教育できる能力がある。
2. 臨床検査で行われる検体検査、微生物検査、生理検査、病理組織検査について指導できる実践的能力がある。
3. 臨床検査医学の分野で研究できる能力がある。

カリキュラムポリシー

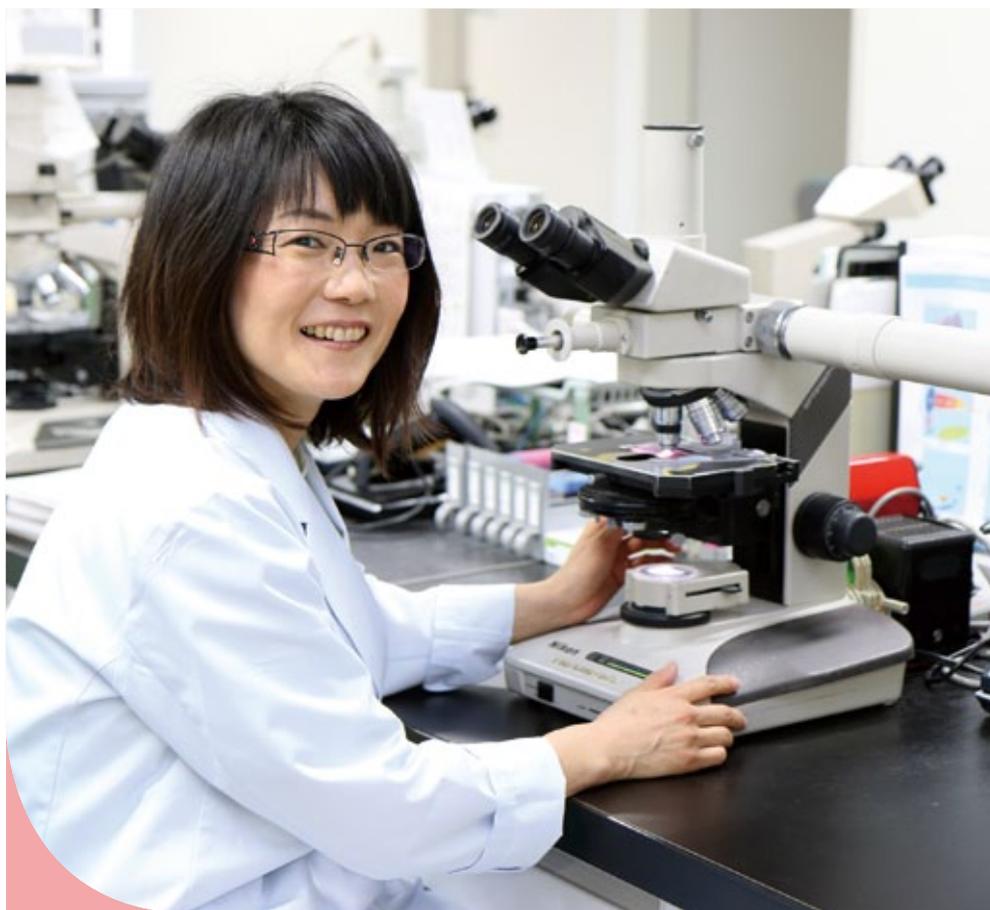
学位授与に要求される能力を修得するために、臨床検査学専攻は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

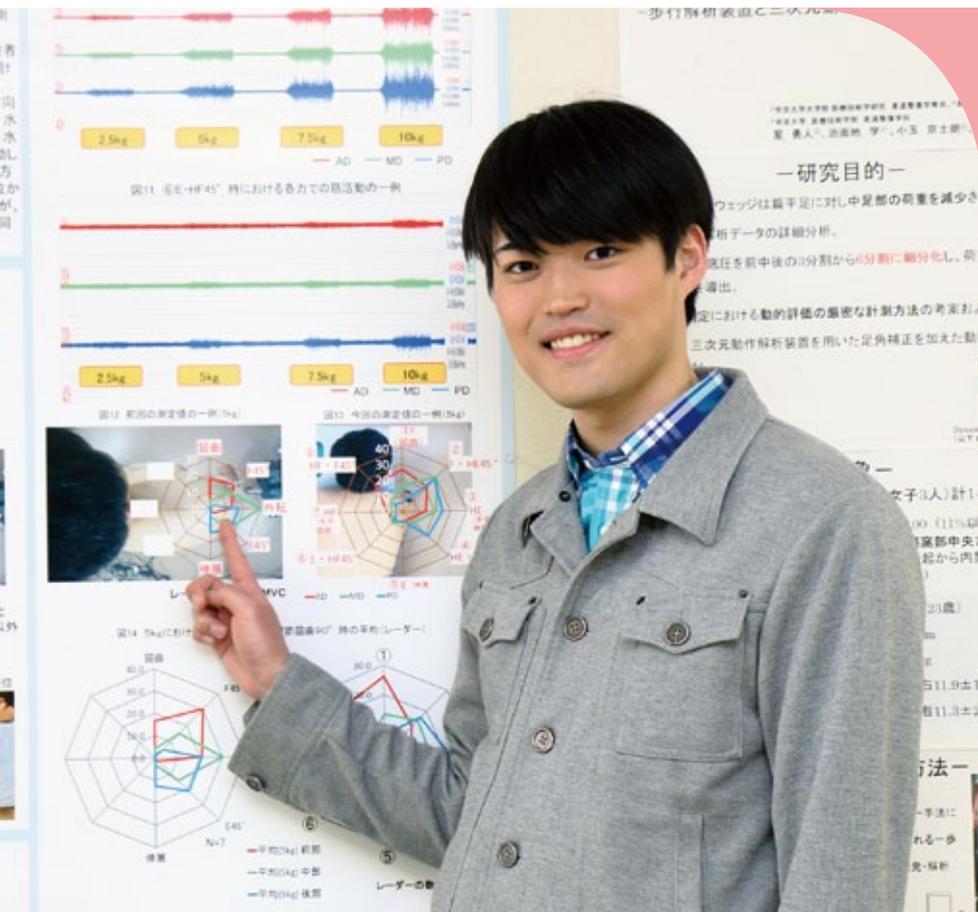
【博士前期課程（修士課程）】

1. 共通科目では、臨床検査に関する専門知識をより深めるため、「生理機能検査学」、「人体システム生理学」、「研究情報処理方法学」、「分子代謝・生化学」を必修科目として配置する。
2. 専門科目では、研究能力をより深めるため、「臨床検査医学」と「臨床検査技術学」に分けて科目群を編成する。
3. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「臨床検査技術学特別研究」を配置する。

【博士後期課程（博士課程）】

1. 臨床検査に関する様々な研究テーマに対応するため、「生理機能検査学」、「病態情報解析学」、「病理検査学」、「感染生体防御機能解析学」、「臨床化学検査学」に関する科目を選択科目として配置する。
2. 個々の研究テーマについて深く考察し、創造的な視点から実験・解析、教育等を行い、学位論文を作成するため、「臨床検査学特殊研究」を必修科目として配置する。





主な研究分野

- 神経科学
- 組織学
- 整形外科学
- 臨床神経生理学
- 柔道整復診断学
- 柔道整復治療学
- 柔道整復外傷学
- 柔道整復測定評価学
- スポーツ医科学
- トレーニング科学

柔道整復学専攻

Division of Judo Therapy

治面地 学さん 修士課程 2年生

両親が接骨院を開業している影響で、柔道整復師を目指した治面地学さん。親族の勧めで専門学校ではなく帝京大学に進み、ヴィジョンが広がりました。「はじめは資格をとって開業しようと考えていましたが、4年間、学部で学ぶうちに教員の仕事に興味が出て、修士や博士をとっていろいろなことを教えられるようになりたいという夢ができました」と治面地さんは振り返ります。

治面地さんに帝京の魅力を尋ねると、設備や機械が揃っていて、いつでも待たずに使えること、そして、いろいろな分野の学科があって連携できることを挙げてくれました。たとえば、研究テーマである三角筋の作用を調べるために特別な機械が必要になった時には、理工学

部の工場に特注で作ってもらったり、仲間の研究においては研究用のプログラムを組んでももらったこともあるそうです。担当教授が熱心な指導をしてくれるだけでなく、学科を超えて先生方が協力を惜しまない、恵まれた環境で研究ができています。

また、プール、体育館、テニスコート等、宇都宮キャンパスは、学生の使えるスポーツ施設が充実しています。「研究室にこもっているのは柔軟な発想ができなくなります。プールで水中を歩きながら何か研究につなげられないか考えることもあります」と治面地さん。卒業後は、外部の博士課程に進学し、研究活動を続けていく予定です。

目的

柔道整復学専攻は、医療技術学研究科の目的に則り、骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などの障害に対応できる専門的な医療技術を備えた柔道整復実践者、研究者、教育者の育成を目的とする。

ディプロマポリシー

柔道整復学専攻は、骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などの障害に対応できる技術および理論を有し、柔道整復術の向上とその学問としての基盤整備を進めることのできる人材の育成を目指している。以下のような能力を身につけ、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 柔道整復学とその関連諸領域の専門的学識を有し、科学的な考えに基づき教育と新たな医療技術に挑戦することができる。
2. 骨、関節、筋などのいわゆる運動器に発生する損傷の実際と専門的理論およびその評価法、治療法を実績できる。
3. 骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などの障害に対する整復、固定、後療法（手技療法、運動療法、物理療法）などを改良し新たな治療法を開発する能力を有している。

カリキュラムポリシー

学位授与に要求される能力の修得のため、柔道整復学専攻（修士課程）は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 柔道整復学およびその関連諸領域のより専門的な知識および技術を修得するため、基礎科目を配置する。
2. 骨、関節、筋などのいわゆる運動器の外傷の実際と理論およびその評価法、並びにその治療の方法論を修得するための専門科目を配置する。
3. 骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などの外傷に対する整復、固定、後療法（手技療法、運動療法、物理療法）などの非観血的治療法の改良・開発のため、より専門的な治療技法の修得およびその改良・開発能力を高める実習科目を配置する。
4. 修士論文の作成など教育・研究および発表能力の開発に必要な研究プログラムを行うため、「柔道整復学特別研究」を配置する。

公衆衛生学 研究科

国際色豊かな学習環境 様々なバックグラウンドを持つ 学生が切磋琢磨できる

公衆衛生学研究科では、国際基準で必須とされる「疫学」、「生物統計学」、「環境保健学・産業保健学」、「保健政策管理学」、「社会行動科学」の5分野を充実させたカリキュラムを採用しています。特に注目が高いのは、毎年1月～2月にかけて開講するハーバード特別講義です。ハーバード大学をはじめ、ケンブリッジ大学、ダラム大学等の提携校から毎年5名の客員教授が来日し講義を行っています。各分野の海外最新事情や最先端の知識に触れることができ、アメリカ、タイ、フィリピン、中国などの提携校からも受講生が参加。グローバルな環境の中で授業が展開されます。

学生指導において最も重視するのは、講義や演習で培った知識・技能を実践の場で役立てる能力として集大成する課題研究です。課題研究では、学生の希望する分野の指導教員だけでなく、学生担任であるアカデミックアドバイザーやその他広く全教員からアドバイスを求める機会が提供されています。さらに、学生同士のディスカッションも重視。医療分野に限らない様々な

バックグラウンドを持った学生がディスカッションすることで、広範かつ多様な視点を身につけることができるでしょう。

東日本大震災以降、災害への対策やレジリエンスの構築に際し、公衆衛生学はますます重視されています。本研究科でも、宮城県石巻で現地の実務家や研究者と協力して、支援・研究を行い、学会等を通じて報告、論文の形にまとめて海外への発信もしています。

■ Curriculum Policy — カリキュラムポリシー

[専門職学位課程]

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 国際標準として公衆衛生専門職に求められる一定レベルの知識・技能を習得するため、米国の公衆衛生教育協会の認定基準に準拠し、「疫学」、「生物統計学」、「行動科学・健康教育」、「保健行政・医療管理学」、「産業環境保健学」の5つの領域（科目群）を設け、養成する人材像にかかわらず、各領域の基礎科目を必修科目としている。
2. 社会や環境との関わりで人間を捉えるという疫学的な思考と公衆衛生マインドを涵養するため、養成する人材像にかかわらず、「疫学」と「生物統計学」を、講義・演習共に必修科目として設定している。
3. 現場の問題に発し現場の実践に資する能力を身につけるため、理論先行の公衆衛生教育から一步踏み出し、ケースメソッド演習やグループ討論、現場実習による実践教育に重点を置き、各養成人材に適合する演習科目や実習科目を配置している。
4. 公衆衛生上の広範かつ多様な課題に対応できる専門能力を育成するため、地域保健や国際保健、緩和医療に関連する科目も設けている。
5. 海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、5つの領域ごとの世界的権威であるハーバード大学教授陣等による「特別講義（冬季集中）」を設けている。

[博士後期課程]

学位授与に要求される知識・能力を取得するために、公衆衛生学専攻（博士後期課程）では、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 公衆衛生の実際の場における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域を統合する役割を果たすことができる能力を有する人材を養成するために共通科目としての公衆衛生学特論Ⅰ～Ⅴ（国際標準として公衆衛生高等教育に求められる5つの領域）を設け、さらに3つの専門分野（「疫学・生物統計学分野」、「産業保健・環境保健学分野」、「保健政策・医療管理学分野」）の授業科目を設ける。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題を発見し、それに対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できようになるため、各専門分野の研究指導教員による「特殊研究」科目を設ける。
3. 公衆衛生の実践と教育・研究を行う実施チームのリーダーとして適切かつ迅速に対応できるリーダーシップを核とする能力を身につけるため、養成する人材像にかかわらず、分野共通の必修科目を設ける。^(※)
4. 研究と実践のバランスを図るため、各専門分野の科目群には演習形式やケーススタディ形式を含む授業科目を設ける。
5. 国際通用性の観点から、海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、公衆衛生学の5つのコア領域について海外提携校の教授陣による授業科目を設ける。

^(※) 分野共通の必修科目は、「リスク科学特論（医療判断学含む）」、「組織管理学特論」、「公衆衛生倫理学特論」の3科目である。



公衆衛生学専攻

Public Health

佐野 友美さん 専門職学位課程 2年生

医学部を卒業後、2年間の研修を終えて進路に迷っていた佐野友美さんは、産業保健分野での健康を守る仕組み作りの重要性を考え、その実現のためには、公衆衛生を専門的に学ぼうと進学を決めました。帝京を選んだのは、狭い分野に特化するのではなく幅広く学べることと、海外からの教員が多く、世界の最新の流れを勉強できると考えたからだそうです。実際に学んでみての感想は、「先生方との距離が近く、専門の垣根なく、わからないことを気軽に聞けます」。

また、様々なバックグラウンドを持つ学生とともに学べることも魅力です。「授業で一つ課題が出ても、医療者はこう考えるけれど、経済の視点からはこ

う、法律の視点ではこう、など今まで想像もしなかったようなものの見方をすべて刺激を受けています」と話す佐野さん。将来、多職種の人とチームを組んで仕事をするときにも役立つのではないかと考えています。

2年コースの1年目には、基本的な統計や疫学の知識を学ぶとともに、実際に日本やアジアの労働現場に赴き、そこで役立つ仕組みの在り方を勉強してきました。2年目となり、いよいよ実際に現場に赴く機会を増やし研究を形にしていきます。「現場が好きで、現場の人々が元から持っているパワーを引き出せるような研究をしたい」と言う佐野さん、博士課程に進むことも検討中です。

主な研究分野

専門職学位課程

疫学
生物統計学
行動科学・健康教育学
保健行政・医療管理学
産業環境保健学

博士後期課程

疫学・生物統計学
産業保健・環境保健学
保健政策・医療管理学



交通アクセス

板橋キャンパス

- 医学研究科
- 薬学研究科
- 医療技術学研究科
(視能矯正学専攻 / 看護学専攻 / 診療放射線学専攻 / 臨床検査学専攻)
- 公衆衛生学研究科



〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL : 03-3964-1211 (代)

最寄り駅から板橋キャンパスまでの所要時間

JR 埼京線「十条駅」より……………徒歩約 10 分
都営三田線「板橋本町駅」より……………徒歩約 12 分

宇都宮キャンパス

- 医療技術学研究科 (柔道整復学専攻)



〒173-8605 栃木県宇都宮市豊郷台1-1
TEL : 028-627-7123

最寄り駅から宇都宮キャンパスまでの所要時間

JR 東北新幹線・宇都宮線「宇都宮駅」西口下車
関東バス 5 番のりばから豊郷台・帝京大学行、ニュー富士見行、
宇都宮美術館行に乗車し 20 分、「帝京大学」下車

